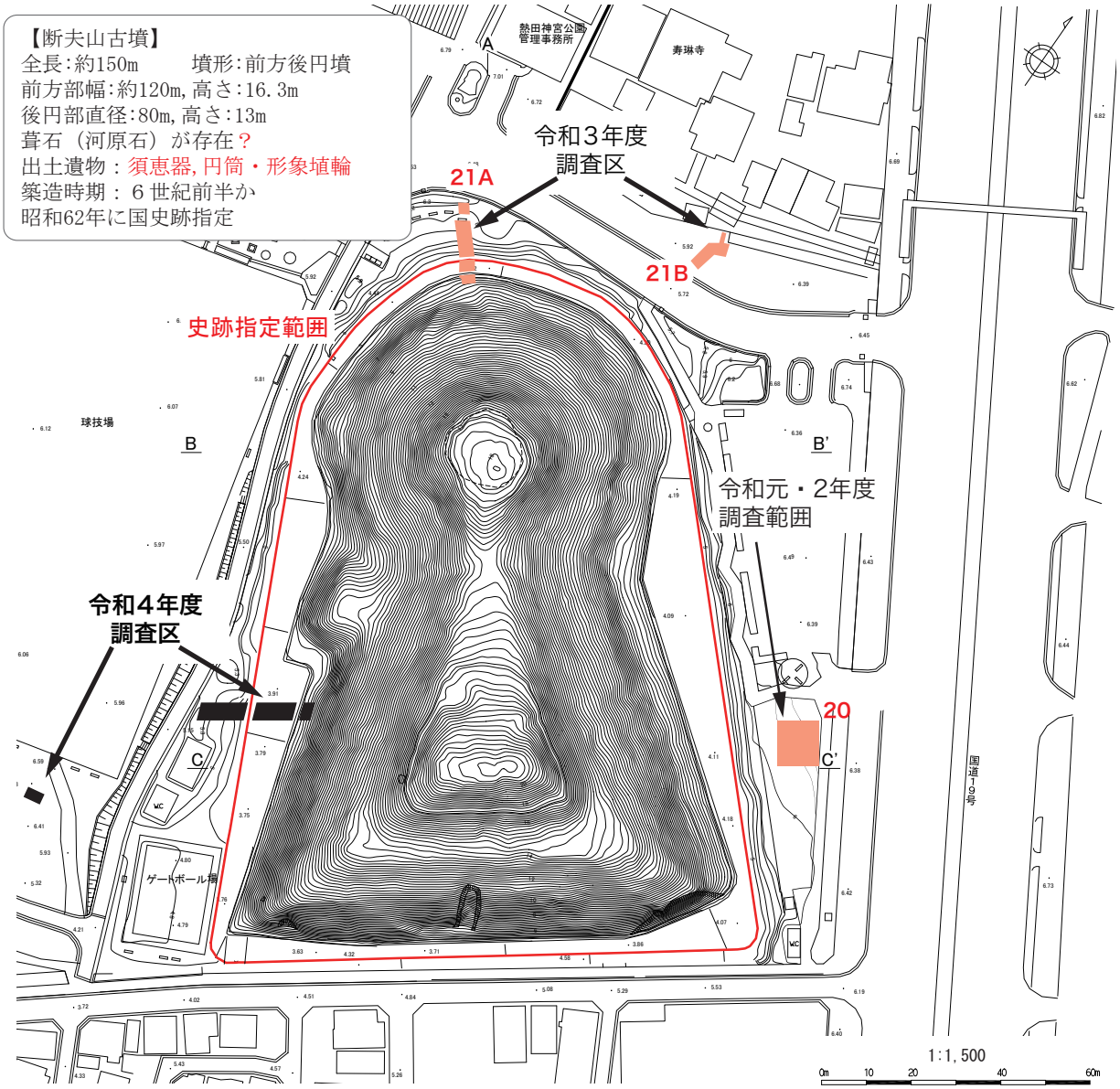
断夫山古墳発掘調査成果（速報）現地説明会資料

令和５年 ３月 ５日(日)
・調査区自由見学
１０時～１２時

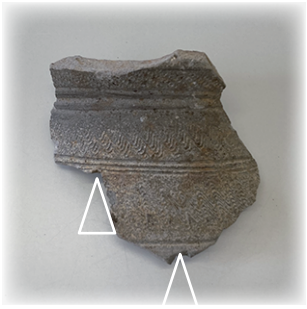
史跡・断夫山古墳の範囲・構造および遺物の残存状況等の考古学的情報を得ることを目的に発掘調査を行っています。令和元・２年度では、墳丘（ふんきゅう）東側で、３年度では、北側に古墳を囲む「周濠（しゅうごう）」の存在を確認しています。

令和４年度は、墳丘西側の史跡指定範囲から園路手前（Ａ区）、グラウンド南（Ｂ区）で墳丘の裾や周濠の確認を目的とした調査を進めています。

現在までの調査で、前方部南西側の周濠（Ａ区）、グラウンド南には外側の濠がなかったこと（Ｂ区）を確認しています。古墳の周辺が、幕末から明治時代、戦後にも、身近な「山」、公園として利用された様子も分かりました。

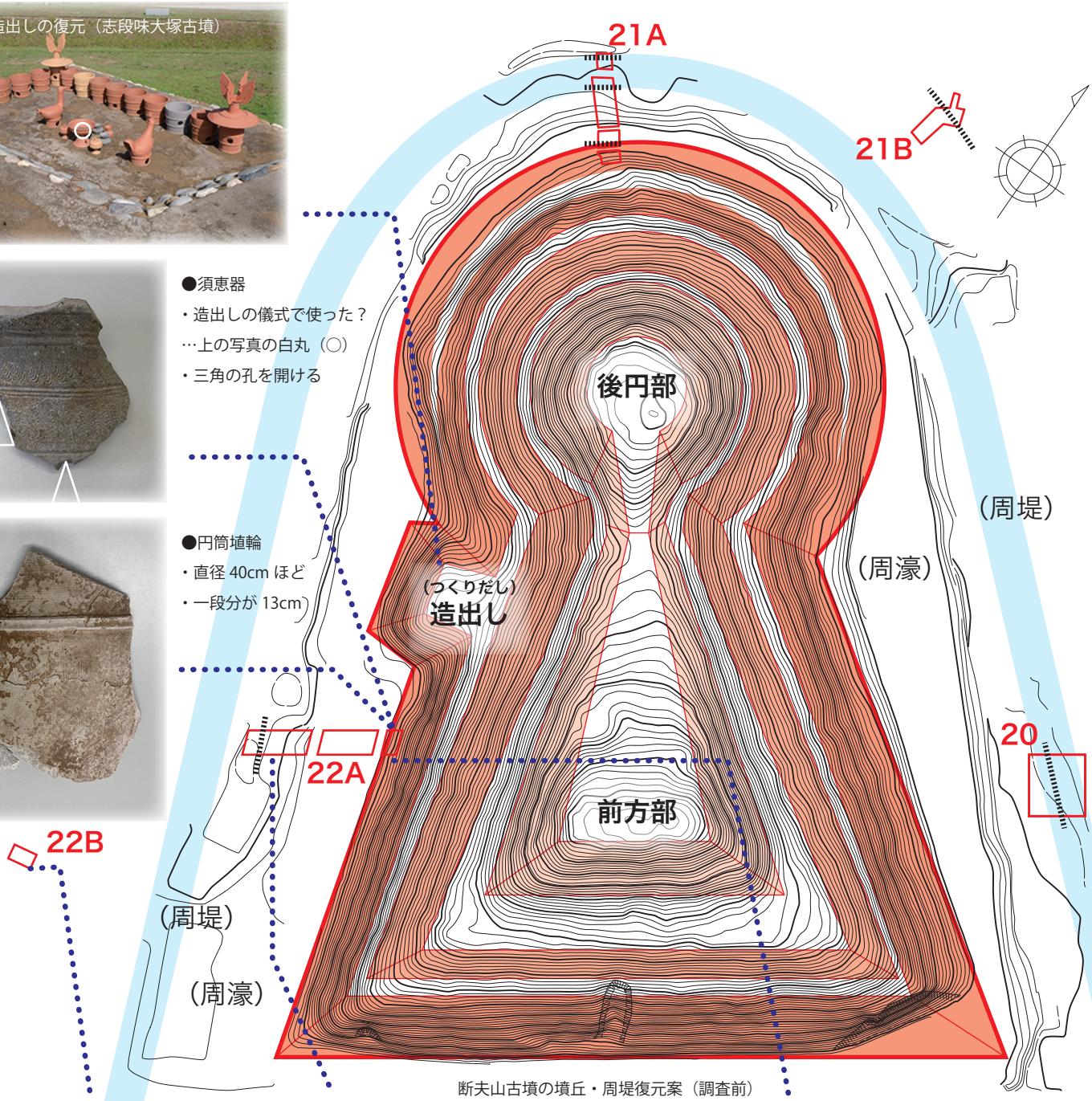


調査機関：愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室
名古屋市教育委員会
（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
調査支援：橋本技術株式会社

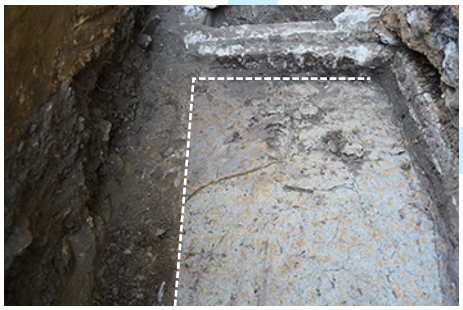


●須恵器
・造出しの儀式で使った？
…上の写真の白丸（○）
・三角の孔を開ける

●円筒埴輪
・直径 40cm ほど
・一段分が 13cm



断夫山古墳の墳丘・周堤復元案（調査前）



・確認した面は高い（周濠の外側と考えられる）。

・高くなっている手前に後世の溝が掘られている。

・裾付近は後世に溝が掘られ、土砂や廃材が盛られる。

・古墳に沿って 3 条の溝（江戸時代）が掘られる。